

保護者の皆様へ

人間発達科学部長 大川 信行

新型コロナウイルス感染症対策と学部学生の活動について

本学部後援会の皆様におかれまして、平素より学部の運営に対しまして、ご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。

ご存じのように本年度は、当初から新型コロナウイルス感染症対策に追われましたので、本学部における対策と状況に關しまして、誌面にてお知らせいたします。

最初の新生オリエンテーションは対面で実施した後、全ての授業はテレビ会議システムを用いた内容に差し替えられ、オンラインで実施することになりました。学部教員は、それぞれその内容を工夫しつつ、対面で行う講義に近い内容を工夫しておりました。

しかし、「子どもとのふれあい体験」等、実際に児童と触れあうことで成り立つ講義類は一切実施できなくなりました。

その後、8月後半から始まる教育実習に関しては、予定通り実施されることになりましたが、開始2週間前からの県外移動の確認および検温の実施等、可能な限りの感染症対策を行い無事終了いたしました。困難な状況下にも関わらず学生を教育実習生として受け入れてくださった協力校に対しては感謝の念しかありません。また、「学校インターンシップ」の受け入れ校におかれましては、県教委との入念な打ち合わせのもとに、10月の初めから週一度木曜日に、本学の1年生を受け

入れていただき、参加学生が、楽しみにしていた学校教育の現場を体験させることができ、彼等が教職への希望を抱くきっかけをつくっていただけたことも喜びに堪えません。

10月からの後期授業は、対面で再開され、本学部の各棟の入り口に検温用の非接触の体温計や消毒液を設置し、各教室の机の配置も間隔をとって座ることができるようにし、常時換気を行いつつ実施してきました。

一方、感染の拡大に伴って、学生の課外活動は大きな影響を受けました。例年開催されていた各競技大会等が中止になったり、活動そのものが制限されたりすることも多々ありました。そのような中でも、本学部の学生が中心になって準備を進めてきました「富山大学スマイルフェスティバル」は、対面での開催を中止しながらも、11月末の2週間にわたってオンラインの動画配信によって開催できたことは、喜ばしいことであります。

残念ながら、11月中旬には五福キャンパスにおいて新型コロナウイルスによるクラスターが発生し、休校措置とその後2週間のオンライン授業となりましたが、現在は状況に応じて対面授業も行っております。

以上のように、本年度の学部では新型コロナウイルスの感染症と向き合いながらも、可能な範囲内で学部における学生の活動が充実したものになるよう努力を重ねてきました。来年度は、是非とも学生たちの大学生活が充実したものになることを心から願ってやみません。学部では一人でも多くの卒業生を教員として、あるいは社会に貢献できる人材として現場に立てるよう、全力で教育と学生指導に取り組んでまいります。後援会の皆様におかれましては、本学部の教育活動と学生への支援活動に対しまして、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



令和2年度 人間発達科学部後援会予算執行状況

【4/1~11/30まで】

収入の部		金額(円)
事項		
前年度より繰越 (R2 新入生会費 1,680,000 円含む)		3,445,315
会費(R02.04.01~11/30)	1年生	400,000
	2年生	120,000
	3年生	105,000
	4年生	120,000
	合計	745,000
収入の部 合計		4,190,315

支出の部		
事項	金額(円)	摘要
入学時保護者説明会会場費	0	新型コロナ感染予防のため中止
教育実習等補助(実習費)	300,000	実施済み
成績通知郵送費	70,000	実施済み
オープンキャンパス関連経費	0	新型コロナ感染予防のため中止
学生支援セミナーの就活体験談講師の学生への謝金	0	新型コロナ感染予防のため中止
新型コロナ対策遠隔授業通信設備	600,000	実施済み
教育施設整備	1,900,000	
卒業論文集の支援	150,000	
学生主体の活動集の支援	0	新型コロナ感染予防のため中止
インフルエンザ予防接種補助	240,000	
学位記授与式・祝賀会会場費	80,000	
後援会総会案内(郵送費)	70,000	
後援会広報誌作成(年1回)	200,000	
後援会広報誌郵送(年1回)	85,000	
振込手数料	70,000	
事務用消耗品類	10,000	
会議費	3,000	
予備費	412,315	
支出の部 合計		4,190,315

*支出の部「事項」「金額」には今後の予定も含んでおります。

夢い〜っぱいの☆遊べる!おもちゃ工房

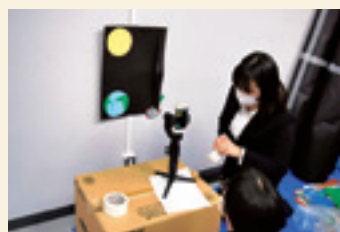


オンライン開催だと遊び場を提供することが不可能だったので、企画の構成を考え直す必要がありました。結果、動画でおもちゃの作り方と遊び方の紹介をすることにしました。ここで、スタッフか

ら出たたくさんの意見の中に「車」と「飛行機」の制作が難しいのではないかとありました。例年は、難しい工程をスタッフが済ませておいて、なるべく少ない工程でおもちゃを作ってもらおうとしていました。



さいえんすラボ



動画の撮影と編集を行い、完成イメージをスタッフ全員で共有できるようにしました。予想以上に活動がスムーズに進んでいると思いきや、撮影や編集をして初めて気づく課題があったり、装飾作成に

意識を向けすぎて実験を改善することがおろそかになっていたり、解決すべき課題もたくさん生じました。しかし、活動に来てくれるスタッフと問題を共有することで1つずつ課題を解決し、実験を成功させるコツも見つけることができました。



おかしの国



今年は、オンライン開催でホームページに載せる動画を作成する必要がありました。動画作成そのものが初めての経験だったので、どのように撮影し編集するのかも全て手探りで進めていく形でした。

特に動画の撮影はなかなか自分たちが思い描いている画が撮れなくて、撮り直し続く苦悩の日々でした。それでも、「オンライン開催でも、例年のようにたくさん子どもたちに『おかしの国』の楽しんでほしい!」という思いから、オブジェ制作と同様、最後の最後まで細部にこだわりのクオリティの高いものを目指して頑張りました。



わくワーク☆キッズタウン〜医療ブース〜



動画作成や編集に全く触れたことのない素人が1から作り上げたものですが内容についてはベストを尽くせたと考えています。しかしストーリー仕立てにするなどの工夫をすることでもう少し動画

を視聴する敷居を下げられたのではないかと反省しています。対面でコミュニケーションをとりながら行うことができず、参加者である子どもたちや保護者の反応がわからないため、これが成功したのか、あともう少しだったのかという点を実感することが難しいと感じました。



本年度の富山大学スマイルフェスティバルは、11月下旬の2週間、オンラインで開催いたしました。これまで、五福キャンパスに子どもや保護者を招いて、当然のように対面で開催してきた内容を、どのように動画配信の企画を立案し、実施してきたのかについて、本年度のスタッフが記した報告書から一部抜粋して以下に紹介させていただきます。(各企画ごとに直接WEBページに飛べるQRコードを掲載しましたので、ぜひご覧ください)

本年度 代表から

今年のスマイルフェスティバルは、「つながる笑顔 あふれるハッピー!」をテーマに掲げました。今年は対面で開催できず参加者とスタッフが会うことはできなくても、動画を視聴した参加者が楽しみ、笑顔になることで、参加者と動画を作成したスタッフが動画を通じて繋がりを感じてほしいという思いが込められています。子どもたちや保護者の方々に心からスマイルフェスティバルを楽しんでいただき、笑顔になっていただくため、私たちスタッフには何が出来るかを日々考え、半年以上にわたって準備を進めてまいりました。



巨大迷路



を大切にしようと考え、今年はブースごとに作業を進めるのではなく、3つのブースが協力し合い巨大迷路全体として装飾作りから動画撮影までを行いました。

今年は開催方法だけではなく、活動方法も変化しました。会議はオンラインで行っていたのでスタッフ同士が直接話すことができませんでした。その分、活動での関わり



ちびっこチャレンジャー



になりました。しかし、ちびっこチャレンジャーは子どもたちがその場で、友達や初めて会った子たちと一緒にゲームを楽しむという体験を提供してきました。

今年のスマイルフェスティバルがオンラインで開催されることになり、ちびっこチャレンジャーが今まで、子どもたちと対面で一緒に行ってきたことを動画にすることに



スポーツバイク



スタッフは新規が多く、分からないことも多々あったと思いますが柔軟な考えで様々な意見を出してくれたため、オンライン開催という新しい試みにも対応することができたのだと思います。企画会議もオンラインであったにもかかわらず、スタッフのみんなが積極的にアイデアを出してくれたおかげで、スムーズにテーマや競技内容を決定することができました。

最初、新規スタッフを募集する前は人数がかなり少なく活動できるかとても不安でしたが予想よりたくさんのスタッフが入ってくれたため、例年通りのブース数をつくることができました。今年のス



フェイスペインティング



のか、直接反応を見ることは叶いませんでしたが、アンケートで楽しかった企画にフェイスペインティングの名前を挙げてくださった方を見て、とてもうれしく思いました。登下校の際など、スマレンジャーのオリジナルマスクをつけた子どもたちに会えるかもしれないなど楽しみにしながら道を歩きたいと思います。

動画の編集段階などで他の企画の方にもアドバイスをしあうなどの交流ができ、スマイルフェスティバル全体ができ上がっていく過程が見られたことも貴重な体験だったと思います。子どもたちがマスクづくりを楽しんでくれた



わくワーク☆キッズタウン～お仕事体験広場～



が全力でやりきることができたこのスマイルフェスティバルは絶対にスタッフの大きな達成感と自信につながったと感じています。

Zoomを使ったわくワーク☆キッズタウン会議の時に新しい環境でかつ新しいスタッフがいる中でみんなが緊張しながら話し合う姿、動画撮影時に班員みんなで「こっちの方が分かりやすいんじゃない?」「これだとこの部分が理解するのが難しいな」とああでもないこうでもないという試行錯誤する姿、動画編集時に真剣な表情で画面にへばりついている姿、動画が完成した時にキラキラした笑顔で喜び合う姿、たくさんのスタッフの素敵な姿を見ることができました。これはいままでのわくワーク☆キッズタウンでは見ることはできなかったと思います。こんな状況だからこそスタッフ全員



■ 令和元年度 人間発達科学部卒業者の職種別卒業生数

		発達教育	人間環境	学部計	
就職希望者	一般企業	13	46	59	
	官公庁(保育士を除く)	11	14	25	
	学校(教員)	幼稚園・こども園	3		3
		小学校	21	9	30
		中学校	4	10	14
		高等学校	1	3	4
		特別支援学校	5	2	7
		中高一貫校			0
		計	34	24	58
	保育士	11		11	
	学校教員+保育士	45	24	69	
	医療福祉(保育士を除く)	2		2	
	自営			0	
	その他			0	
就職未定者	2		2		
計	73	84	157		
進学		7	7	14	
その他		0	0	0	
卒表者数		80	91	171	

(本学のHP公開情報より作成)

■ 令和2年度 富山大学人間発達科学部後援会 役員一覧

会 長／虎谷 光茂 (婦中整骨院長)
 副会長／松倉 美華
 (富山県教育委員会小中学校課主幹)
 副会長／大川 信行 (学部長)

理 事／笹原 克彦 (富山市立四方小学校教頭)
 理 事／隅 敦 (学部長補佐)
 監 査／廣島 晃 (上市町立宮川小学校長)
 監 事／岸本 忠之 (副学部長)

編集後記

人間発達科学部後援会報の第2号を作成いたしました。本年度は、コロナ禍における学生の活動情報として「富山大学スマイルフェスティバル」を取り挙げて紹介いたしました。来年度は、もっと、多様な活動が紹介できることを祈っております。

問い合わせ先

富山大学人間発達科学部後援会

〒930-8555 富山市五福 3190
 TEL. 076-445-6260 FAX. 076-445-6264